

葉隠れ

森岡 正作

青田路

国 浮 け り 関 東 平 野 に 田 水 張 り
薄 暑 光 漁 港 の 昼 の が ら ん ど う
水 切 り の 石 新 緑 を 畳 み ゆ く
葉 隠 れ の 尻 青 梅 の 知 恵 盛 り
大 瑠 璃 の 声 み づ う み を 磨 き を り
逆 さ ま に 慣 れ て バ ケ ツ の 初 鰹
万 緑 ヘ グ リ コ の 男 飛 び 出 せ り

土地改良で区画化された中に三反歩の田んぼがある。私は農業に素人なので、田植えと稲刈りは業者に頼み、自分は田植え前や稲刈り後にトラクターで土をかき回し、田んぼに稲がある時は、畦の草刈りと水の管理である。

今はまさに青田である。毎日水の見回りに行っては、盗まれた水を盗むという繰り返し、半ば散歩気分でもある。登四郎先生に「青田路それて身に湧く風をきく」という句がある。確かに青田の中に立っていると風が心地良い。青田から湧く風もあれば、青あらしをはらんで田に分け入って来る風もある。日や雲の翳り具合によっては田表が暗くなり、背後からグライダーが着陸して来るような青田波を発生させてくれる。

今朝は田んぼに青鷺の番がいて、片方は優雅に舞っていた。これからも白鷺が来たり、鴨の親子が来る青田である。